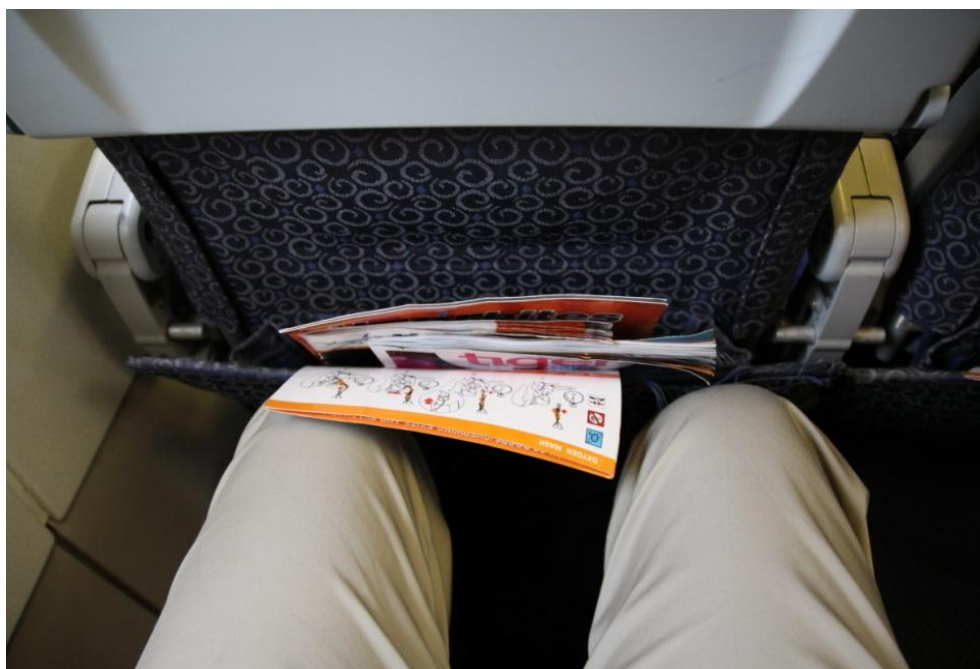


第7話 近距離こそLCCの本領だ

機内に入って予約してあった最後部左側の30Aに進む。ちなみに装着席数は180席だ。通路から窓際の席に入ろうとすると身体を横にして更に曲げないとたどり着けない。ここでシートピッチの狭さを初めて体験したことになる。早速、ヒザ前とシートポケットの間隔を計測すると21cmと狭い。アームレストの内側の幅は44cmある。とても足は組めないが、たかだか1時間のフライトであれば問題はない。座席カバーは布製で角の部分やシートポケットの端が毛羽立っている。後で分かったのだが、テーブルのストッパーが壊れていてテーブルを出すと斜めになる。これぐらいは直しておいて欲しいものだ。この機体は2004年8月に新造機で納入されたTiger Airwaysにとって最初のA320だ。多少のほつれはベテランの証ということで納得しておこう。シートポケットには「安全のしおり」「メニュー」「機内販売カタログ」「Tiger Tailという機内誌」が入っているが、どれもAirAsiatic Xと同様に使い込んだ物だ。



この足元は少々狭い … 足を組むことは考えない方がよい



窓側の席の人は出入りに苦労する

搭乗率は 60~65% といったところか、後ろの方に空席が目立つ。そう言えば日本を出る直前に運賃が 2RM まで下がっていた訳も分かる。安くしてでも空席を埋めようとするのが LCC らしい方法だ。

乗務員は Thiele Uwe 機長以下、副操縦士と客室担当 CA は男性 1 名、女性 3 名の 4 名編成だ。

12 時 32 分、機体はゆっくりと Push Back を開始した。最近日本では Push Back をしてからエンジンを回しているが、ここでは以前日本でもやっていたように Push Back しながらエンジンをスタートさせていた。そのため Push Back 終了後、地上滑走開始が早い。ゆっくりとした速度で滑走路に向かい、12 時 42 分に滑走路を北に向けて離陸した。

離陸して 8 分後、CA が飲み物のオーダー(販売)をとりだしたが、機体後方でオーダーしたのは 1 人だけだった。短時間のフライトの LCC で、あえて機内でお金を使うことはしないのかもしれない。

缶入りのコーラやジュースなど、ソフトドリンクは S\$3 (約 190 円)



最後まで雲中飛行が続いたが、機は SIN に滑るように着陸した。案の定、雨が強く降っていた。13時32分に LCC 専用ターミナル(Budget Terminal と呼んでいる)の前に到着した。飛行時間は丁度 1 時間で、概ね羽田=大阪(伊丹)間といったところだ。



SIN 到着前、安全確認をする CA

前方のドアからタラップで降りるのであるが、最後部の私が前進するまでには少々時間がある。そこで後ろにいる CA に質問を試みた。「皆さんは多い日で何区間飛ぶの?」「短い区間ばかりだと 1 日 4 区間は飛ぶわ。最も遠いパースなら 1 回だけ。」なるほどお疲れ様です。

幸い飛行機を降りる時になると雨は小降りになった。すぐ目の前にターミナルの入り口があるのであまり濡れないですんだ。ターミナルに入って階段を昇ると通路を左に進む。流れに沿って行くと、1 階に下がって入国審査を受ける。既にターンテーブルの上で回っている預けた荷物をピックアップして到着ロビーに出た。

外はまた雨脚が早くなってきた。到着ロビー右手に 1 か所だけある銀行で両替を済ませてから、KUL の LCCT よりコンパクトな造りのターミナルを試してみることにした。

(続く)



Tiger Airways の A320、尾翼は「虎の尾」ということでしょうか？